

解答

一

問一 (a) 報告 (b) 許 (し) (c) 深刻 (d) 設定 (e) 祝 (い)

問二 筋肉痛で、峠越えをするきつい二日目のコースを完走できそうにないから。

問三 いつか再チャレンジするから、今日走るのは諦める

問四 ア

問五 (あ) ア (い) エ

問六 北斗のリタイアしても今日は走って行けるところまで行ってみたいという願望が、父に受け入れられたことがわかったから。

問七 オ

問八 ウ

二

問一 江戸時代まで日本人は自然の中に生き、自然と自分を分けずに一体であった。しかし明治時代以降に入った輸入語の自然は、原生自然というもう一つの性格をもち人間以外を自然と言う為、外から自然を見るという新たな意味が付加されたと考えている。

問二 イ

問三 筆者は自然を内側から見えており、自然の一員として、人間と自然を分離せずに見ている。それに対して外側からの見方には、人為が加わらないままの原生自然を理想的なモデルにしたいという魂胆(価値観)があり、わざわざ手入れが行われている自然を二次的な自然と断るので、原生自然と二次的な自然が区別されるから。

問四 人間と自然を分離して見ること。

問五 ウ

問六 ア、エ

解説

一

問二 傍線部の前に「今日これから峠越えをして百キロ走れる状態ではなさそうだ」とあり、その後には二日目のコースが厳しいという描写があるので北斗の足の状態とともにまとめます。

問六 直前の「じゃあ今日は走れるだけ走ろう」という言葉を聞いて、北斗がうなずいたことから、自分の「行けるところまで行ってみたい」という気持ちちが昇平に受けとめられたことが分かり、北斗が納得した様子が読み取れます。

二

問三 自然を内側から見ると外側から見るとかという違いによって、自然という言葉の捉え方が異なっていることをふまえます。筆者の立場と対比させながら、「外側からの見方」について詳しく記述されている部分をわかりやすくまとめます。

問六 最後の二段落の内容をおさえましょう。現代社会と「自然」について触れられています。筆者の主張が述べられている箇所に着目すると、選択肢ア、エの内容が適切であると考えられます。